

麦類赤かび病の防除を適期に行いましょう！

[現在の状況]

- ① 4月上旬現在、農業研究所及び病害虫防除所の調査圃場における麦類の予測出穂期は、六条大麦で4月上旬～5月上旬、二条大麦で4月上旬～下旬(表1)、小麦で4月中旬～5月上旬(表2)である。
- ② 予測出穂期から算出した防除適期を表1及び表2に示した。なお、3月29日気象庁発表の気象予報によると、向こう1か月の気温は高いと予想されている。そのため、今後の気温が平年より2℃高く推移した場合、表1,2に記載した出穂期及び防除適期は、2～5日早まる可能性がある。

※予測される出穂期及び防除適期は、播種期や気象条件により変動するので、圃場ごとに生育状況をよく確認する。

表1 大麦の予測出穂期及び赤かび病の予測防除適期(平成30年4月4日現在)

麦種	品種	地域	調査地点	播種期	予測出穂期 ¹⁾	予測防除適期 ²⁾		
六条大麦	カシマゴール	県央	水戸市上国井町	11/ 6	4/ 4	4/ 7		
			水戸市小林町	11/15	4/21	4/24		
		県南	龍ヶ崎市大徳町	11/13	4/ 7	4/10		
			河内町源清田	12/14	4/18	4/21		
		県西	常総市三坂町	11/21	4/14	4/17		
			筑西市小栗	12/10	4/25	4/28		
			筑西市伊讃美	11/ 8	4/18～20	4/21～23		
		二条大麦	カシマムギ	県央	水戸市上国井町	11/ 6	4/ 9	4/12
				県南	つくば市小沢	12/25	5/ 3	5/ 6
					龍ヶ崎市大徳町	11/13	4/ 9	4/12
県西	八千代町高崎			12/10	4/22	4/25		
ミカモゴールデン	県央			那珂市飯田	11/16	4/19	5/ 1～ 3	
	県南			龍ヶ崎市大徳町	11/13	4/ 6	4/18～20	
		稲敷市佐原組新田	11/13	4/ 6	4/18～20			
	筑西市久地楽	11/15	4/15	4/27～29				
	筑西市小栗	11/20	4/12	4/24～26				
	桜川市原方	11/上	4/25	5/ 7～ 9				

- 1) 農業研究所ホームページに掲載されている「麦類主要品種の主稈長による茎立ち期、幼穂長による出穂期予測法」の計算式を用いて予測した。各調査地点付近のアメダス観測所の日平均気温は、幼穂長調査日(3/27)から予測計算日前日までの実測値及び予測計算日以降の平年値を用いた。また、水戸市上国井町、龍ヶ崎市の幼穂長は農研速報(4/2, 4/3発行)のデータを用いた。
- 2) 予測防除適期は、六条大麦は予測出穂期の3日後、二条大麦は予測出穂期の12～14日後とした。

表2 小麦(さとのそら)の予測出穂期及び赤かび病の予測防除適期(平成30年4月4日現在)

地域	調査地点	播種期	予測出穂期 ¹⁾	予測防除適期 ²⁾
県央	水戸市上国井町	11/ 6	4/19	4/26～4/29
		11/20	4/26	5/ 3～5/ 6
	つくば市大形	11/29	4/23	4/30～5/ 3
県南	龍ヶ崎市大徳町	11/13	4/15	4/22～4/25
		11/20	4/18	4/25～4/28
	つくばみらい市市野深	11/21	4/20	4/27～4/30
県西	結城市結城	11/27	4/24	5/ 1～5/ 4
	筑西市二木成	11/28	4/25	5/ 2～5/ 5
	桜川市加茂部	12/15	5/ 2	5/ 9～5/12
	桜川市原方	12/13	5/ 3	5/10～5/13
	八千代町高崎	12/20	4/26	5/ 3～5/ 6

- 1) 予測出穂期は、表1と同様に予測した。水戸市、龍ヶ崎市の幼穂長は農研速報(4/2, 4/3発行)のデータを用いた。
- 2) 予測防除適期は、予測出穂期の7～10日後とした。

[防除対策]

- ① 防除適期は、六条大麦では開花を確認した時（出穂期の3日後頃）、二条大麦では穂から葎殻が出ていることを確認した時（出穂期の12～14日後頃）、小麦では開花始期～開花期（出穂期の7～10日後頃）である（図）。予測される出穂期及び防除適期は麦種や播種期によって異なるため、圃場ごとに出穂状況を確認して適期に防除する。
- ② 赤かび病菌の子のう胞子の飛散好適条件は、「日最低気温 10℃以上、日最高気温 15℃以上の条件を満たし、湿度 80%以上の日か降雨日とその翌日」である。飛散好適条件が続く場合は、1回目の薬剤散布7～10日後に2回目の散布を行う。
- ③ 薬剤を選定する際は、使用回数や収穫前日数に十分注意する（表3）。また、2回以上散布する際は、薬剤耐性菌の出現を防ぐため、FRACコードの異なる薬剤を用いる。

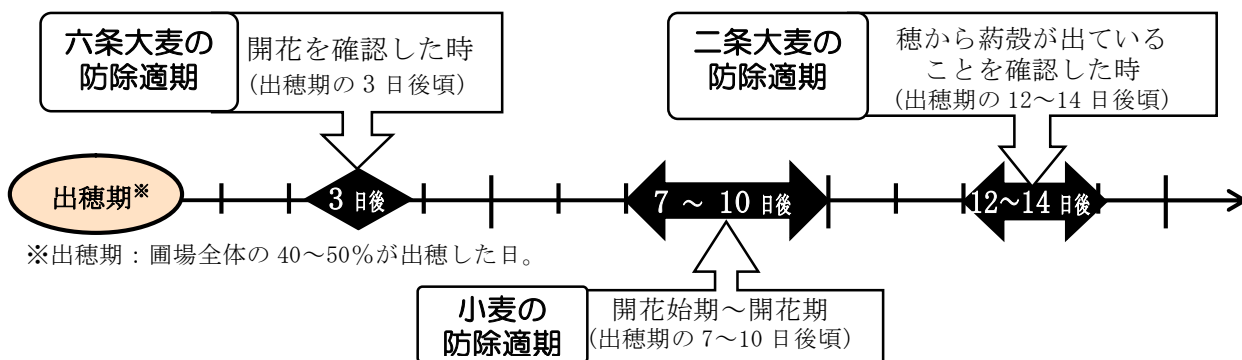


図 麦類赤かび病の防除適

表3 麦類赤かび病に適用のある主な薬剤（平成30年4月1日現在）

薬剤名	麦種	希釈倍数	使用時期	本剤の使用回数	使用方法「無人ヘリコプターによる散布」の適用 ¹⁾	FRACコード ³⁾
トップジンM水和剤	麦類 (小麦を除く)	1,000～ 1,500倍	収穫30日前まで	3回以内 (出穂期以降は1回以内)	無 ²⁾	1
	小麦		収穫14日前まで	3回以内 (出穂期以降は2回以内)		
チルト乳剤25	大麦	1,000～ 2,000倍	収穫21日前まで	1回	有	
	小麦		収穫3日前まで	3回以内		
シルバキュアフロアブル	大麦	2,000倍	収穫14日前まで	2回以内	有	3
	小麦		収穫7日前まで			
ワークアップフロアブル	大麦 麦類 (大麦を除く)	2,000倍	収穫7日前まで	3回以内	有	
ストロビーフロアブル	麦類 (小麦を除く) 小麦	2,000～ 3,000倍	収穫14日前まで	3回以内	無	11

1) 使用方法「無人ヘリコプターによる散布」においては、希釈倍数等が表中の内容と異なるので十分注意する。
 2) トップジン M 水和剤と有効成分が同じであるトップジン M ズルは使用方法「無人ヘリコプターによる散布」の適用がある。
 3) 殺菌剤耐性菌対策委員会（FRAC）により、殺菌剤の有効成分の作用機構を分類し、コード化したもの。